

## 第Ⅶ部 ケアマネジャー



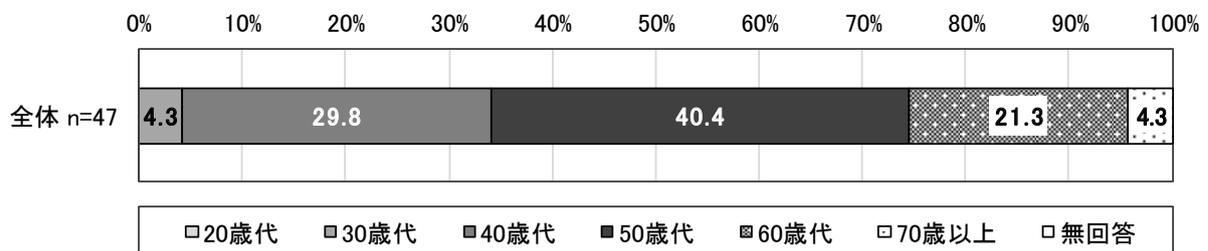
## 第1章 ケアマネジャー 調査結果

### 1. あなた自身について

「1. あなた自身について」は、回答者の属性、ケアマネジャーの通算年数を把握するための項目となっています。

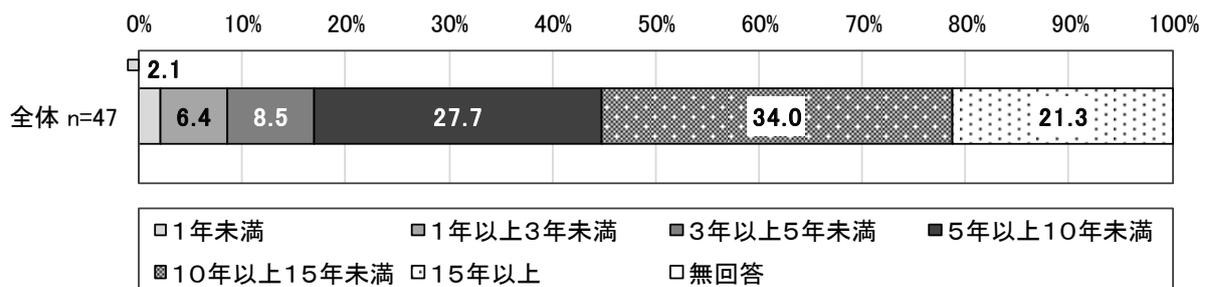
#### 問1. 令和2年1月1日現在のあなたの年齢をお答えください。(回答は1つ)

年齢については、「50歳代」が40.4%で最も高く、次いで「40歳代」が29.8%、「60歳代」が21.3%となっています。



#### 問2. ケアマネジャーの仕事をはじめて通算何年(他事業所含む)になりますか。(回答は1つ)

ケアマネジャーの仕事の通算年数については、「10年以上15年未満」が34.0%で最も高く、次いで「5年以上10年未満」が27.7%、「15年以上」が21.3%となっています。

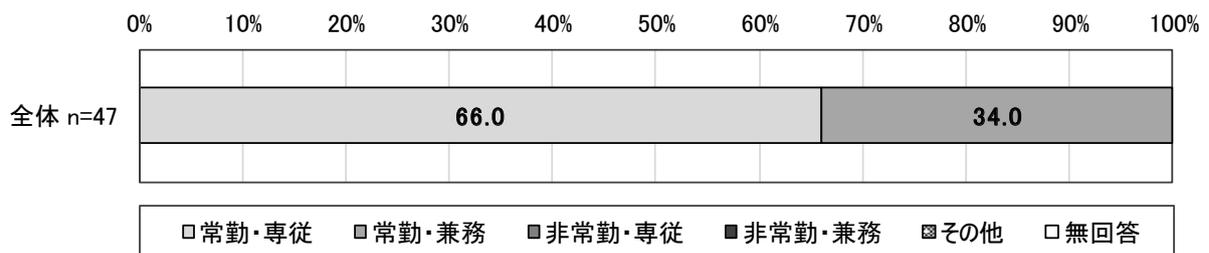


## 2. 業務の状況について

「2. 業務の状況について」は、勤務形態、担当する居宅のケアプラン作成人数、現在の業務量への負担感、地域ケア個別会議で得られていること、医療関係者との連絡手段、医療関係者との連携を充実させるために必要なことを把握するための項目となっています。

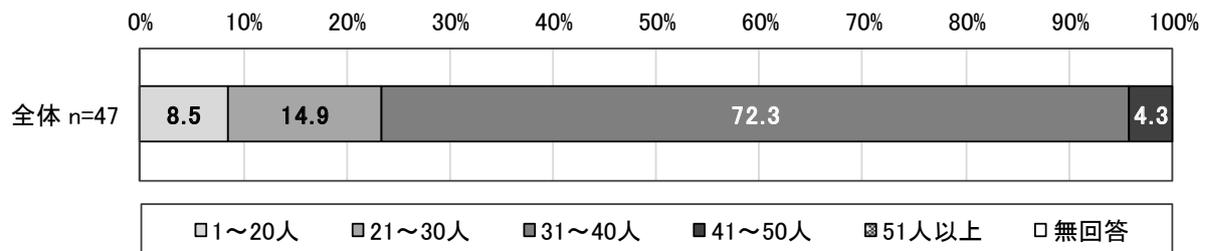
### 問3. あなたの勤務形態をお答えください。(回答は1つ)

勤務形態については、「常勤・専従」が66.0%、「常勤・兼務」が34.0%となっています。



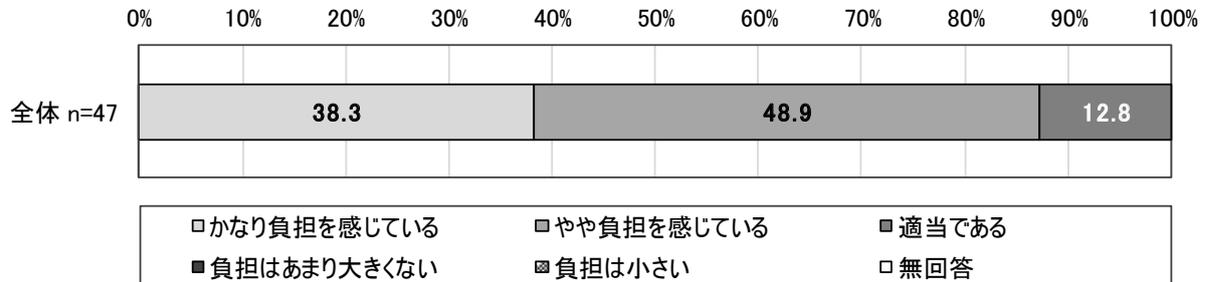
### 問4. あなたが担当する居宅のケアプラン作成人数をお答えください。(令和元年12月利用分) (回答は1つ)

1か月のケアプラン作成人数については、「31~40人」が72.3%で最も高く、次いで「21~30人」が14.9%、「1~20人」が8.5%となっています。



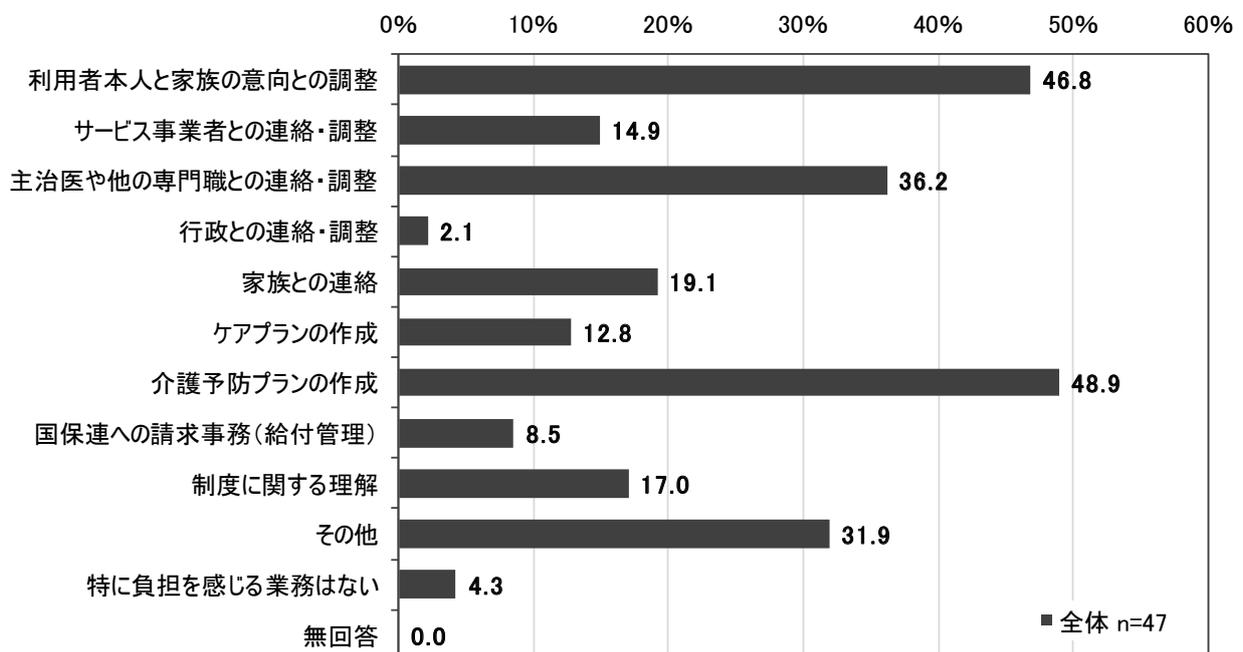
**問5. 現在の業務量についてどのように思いますか。(回答は1つ)**

現在の業務量についてどう思っているかについては、「やや負担を感じている」が48.9%で最も高く、次いで「かなり負担を感じている」が38.3%、「適当である」が12.8%となっています。



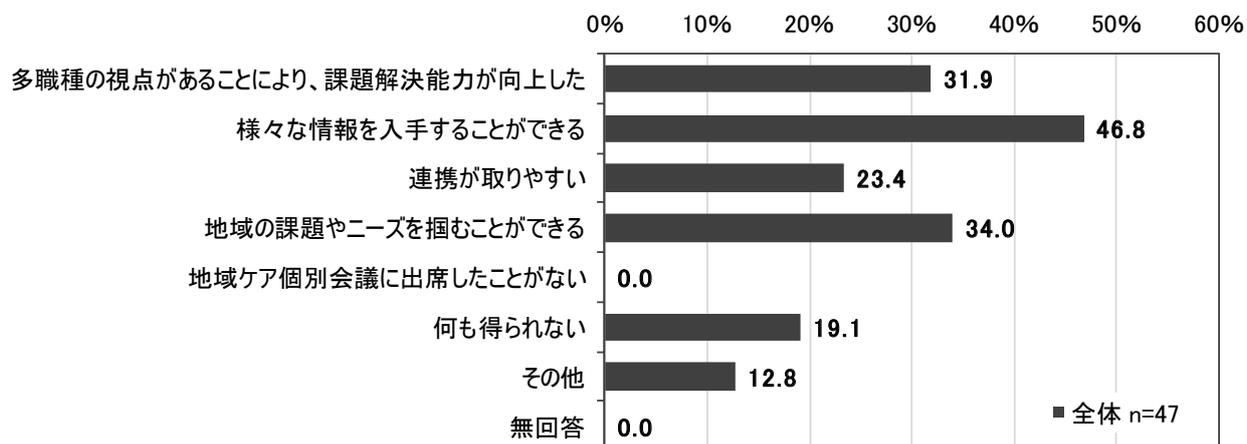
**問6. どの業務に特に負担を感じますか。(回答は3つまで)**

特に負担を感じる業務については、「介護予防プランの作成」が48.9%で最も高く、次いで「利用者本人と家族の意向との調整」が46.8%、「主治医や他の専門職との連絡・調整」が36.2%となっています。



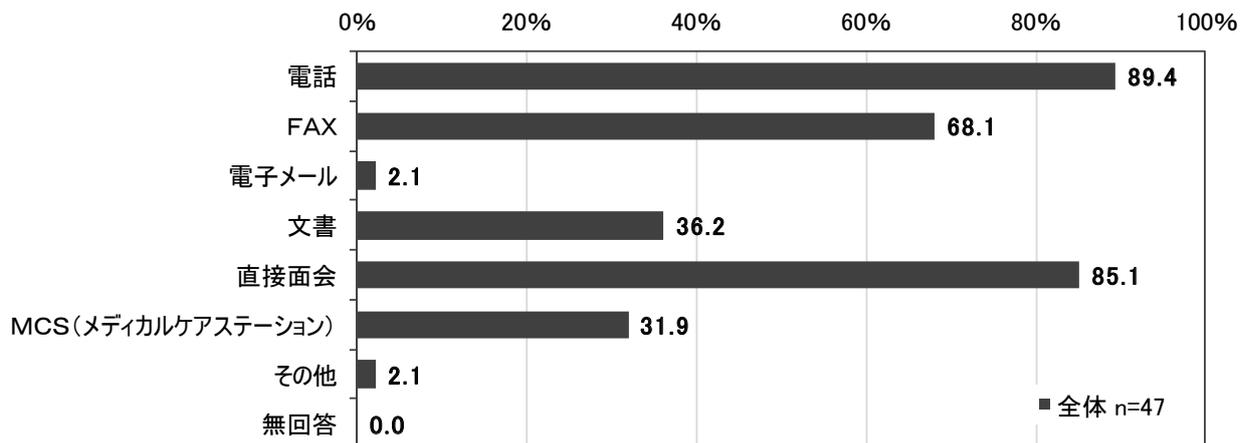
**問7. 地域ケア個別会議において、得られていると感じていることをお答えください。  
(あてはまるものすべてに回答)**

地域ケア個別会議において、得られていると感じていることについては、「様々な情報を入手することができる」が46.8%で最も高く、次いで「地域の課題やニーズを掴むことができる」が34.0%、「多職種の視点があることにより、課題解決能力が向上した」が31.9%となっています。



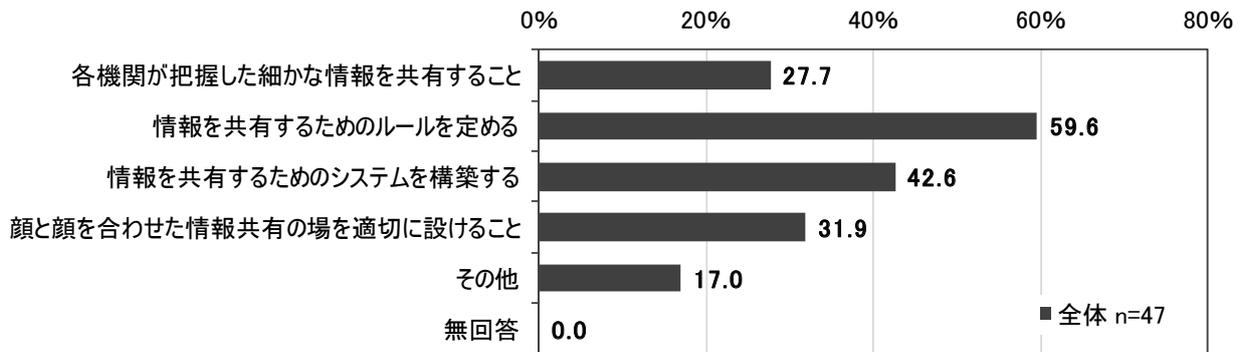
**問8. 医療関係者との現在の連絡手段をお答えください。(あてはまるものすべてに回答)**

医療関係者との連絡手段については、「電話」が89.4%で最も高く、次いで「直接面会」が85.1%、「FAX」が68.1%となっています。



**問9. 今後、医療関係者との連携を充実させるためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
(あてはまるものすべてに回答)**

今後、医療関係者との連携を充実させるために必要だと思うことについては、「情報を共有するためのルールを定める」が59.6%で最も高く、次いで「情報を共有するためのシステムを構築する」が42.6%、「顔と顔を合わせた情報共有の場を適切に設けること」が31.9%となっています。

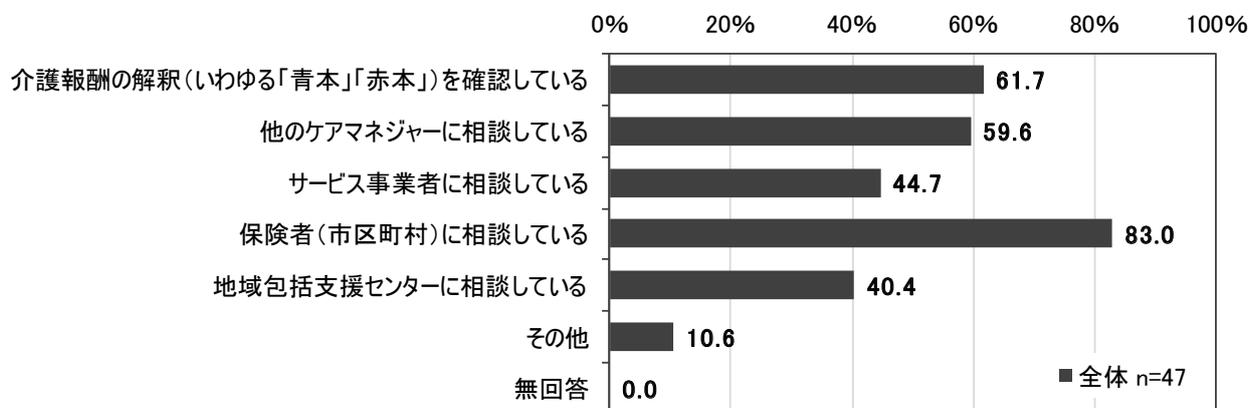


### 3. ケアプランについて

「3. ケアプランについて」は、ケアプラン作成や給付管理などで悩んだときの対応、介護保険外の公的福祉サービスの活用状況、インフォーマルサービスの活用状況、インフォーマルサービスで必要だと思うサービス、利用者からの苦情を把握するための項目となっています。

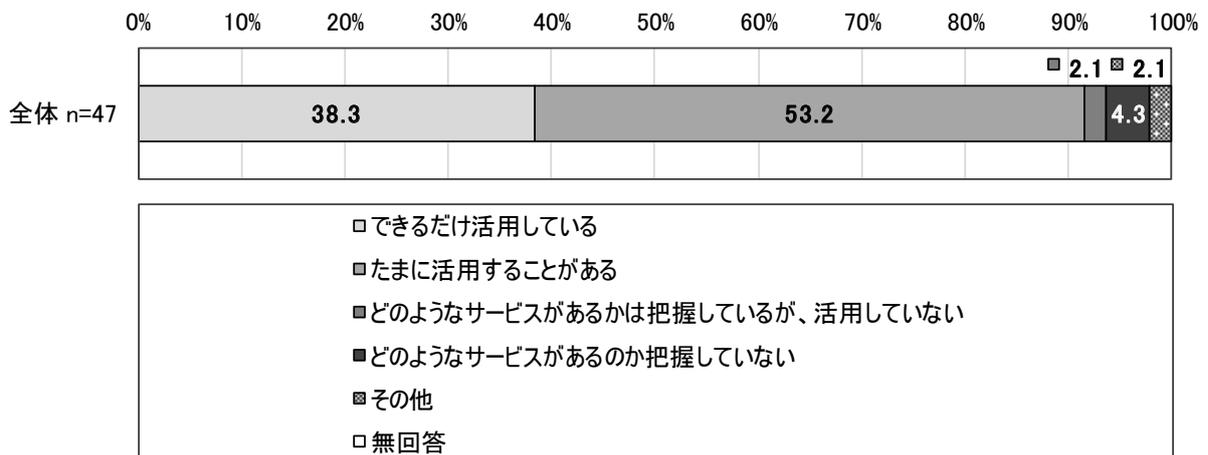
**問 10. ケアプランの作成や給付管理など、業務上で判断に悩んだ場合はどうしていますか。**  
 (あてはまるものすべてに回答)

業務上で判断に悩んだ場合の対応については、「保険者（市区町村）に相談している」が 83.0%で最も高く、次いで「介護報酬の解釈（いわゆる「青本」「赤本」）を確認している」が 61.7%、「他のケアマネジャーに相談している」が 59.6%、「他のケアマネジャーに相談している」が 59.6%となっています。



**問 11. ケアプランを作成する際に、介護保険外の公的福祉サービスを活用していますか。**  
 (回答は1つ)

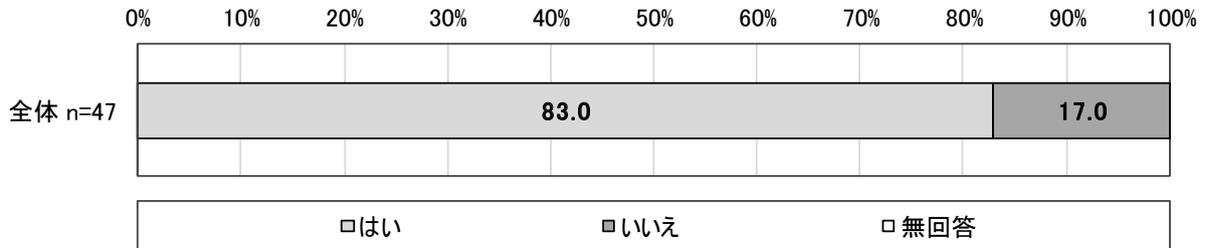
ケアプランを作成する際に、介護保険外の公的福祉サービスを活用しているかについては、「たまに活用することがある」が 53.2%で最も高く、次いで「できるだけ活用している」が 38.3%、「どのようなサービスがあるのか把握していない」が 4.3%となっています。



- できるだけ活用している
- たまに活用することがある
- どのようなサービスがあるのか把握しているが、活用していない
- どのようなサービスがあるのか把握していない
- その他
- 無回答

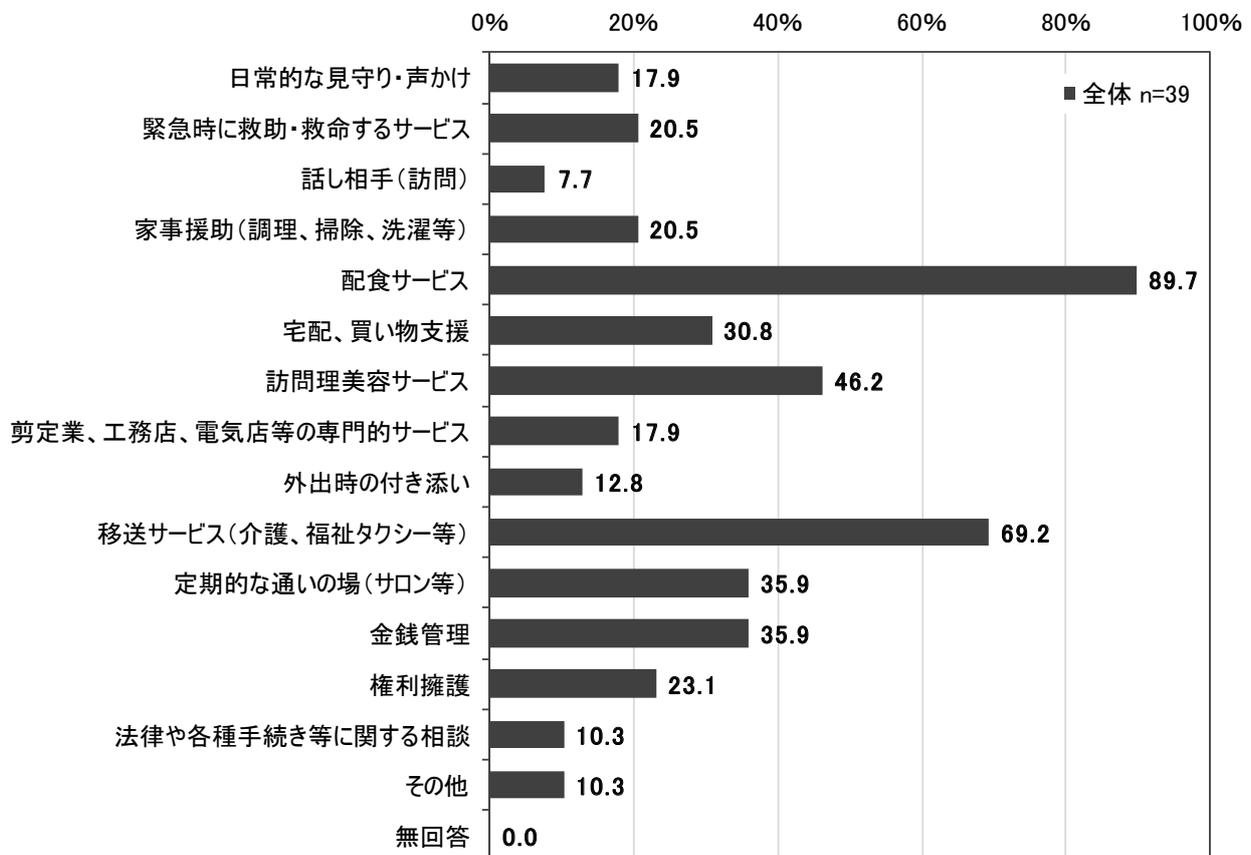
**問 12. ケアプランを作成する際に、インフォーマルサービス（住民主体の通いの場や民間の家事援助サービス等）を活用していますか。（回答は1つ）**

ケアプランを作成する際に、インフォーマルサービスを活用しているかについては、「はい」が83.0%、「いいえ」が17.0%で、「はい」が66.0ポイント上回っています。



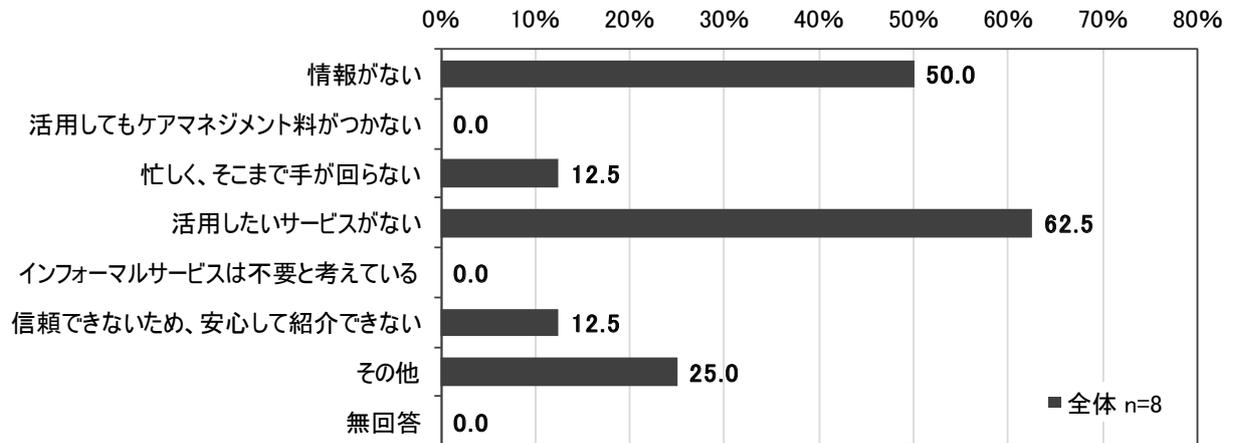
**問 12-1. 【問 12で「はい」と回答した方におたずねします。】  
活用したのはどのようなインフォーマルサービスですか。（あてはまるものすべてに回答）**

活用したインフォーマルサービスについては、「配食サービス」が89.7%で最も高く、次いで「移送サービス（介護、福祉タクシー等）」が69.2%、「訪問理美容サービス」が46.2%となっています。



**問 12-2.【問 12で「いいえ」と回答した方におたずねします。】**  
**インフォーマルサービスを活用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに回答)**

インフォーマルサービスを活用していない理由については、「活用したいサービスがない」が62.5%で最も高く、次いで「情報がない」が50.0%、「その他」が25.0%となっています。



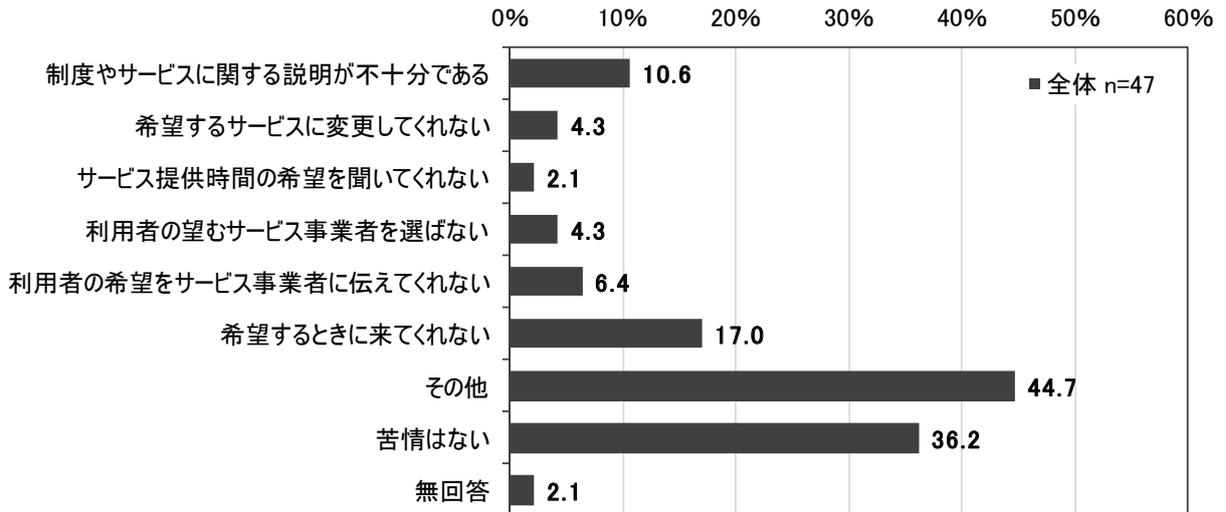
問 13. インフォーマルサービスで必要だと思うサービスがあれば、ご記入ください。

インフォーマルサービスで必要だと思うサービスについて
病院への送迎の充実（タクシーなど）
インフォーマルサービスの相談員
電球替えなどヘルパーができないサービス（ワンコインでの支援）
移送サービス、家事支援（電球替えなど）
患者会の情報提供
独居高齢者の見守り
服薬確認、通院介助、買い物支援、単身者の安否確認
介護保険サービスの情報提供
家事援助、通院介助
移送と病院内の付き添いを組み合わせたサービス、あんしんサポートの充実
低価格の家事援助
移送サービス
移動支援
公民館活動への参加の誘い・同行、各種手続き支援・代行、ペットの世話、緊急時の対応サポート（人手）
低価格の家事援助サービスと移送サービス
介護保険で対応できない支援（不定期、単発）、適価な生活支援（雪かき等）、院内付き添い
送迎（サロンなど）
送迎
短時間対応の見守りサービス（訪問）等、低料金で受けられるサービス
外出の際の交通手段
金銭管理の適任者、通院入院時の付き添い
生活援助や通院の付き添いボランティア
認知症や精神疾患のある独居の方の見守り、声掛け

**問 14. これまでに、利用者からの苦情はどのようなものがありましたか。**  
**(あてはまるものすべてに回答)**

利用者からの苦情内容については、「その他」が 44.7%で最も高く、次いで「苦情はない」が 36.2%、「希望するときに来てくれない」が 17.0%となっています。

その他の回答としては、『職員の説明不足』『相性が合わない』『サービスの導入が遅い』『利用したサービスが気に入らなかった』などの回答がみられます。



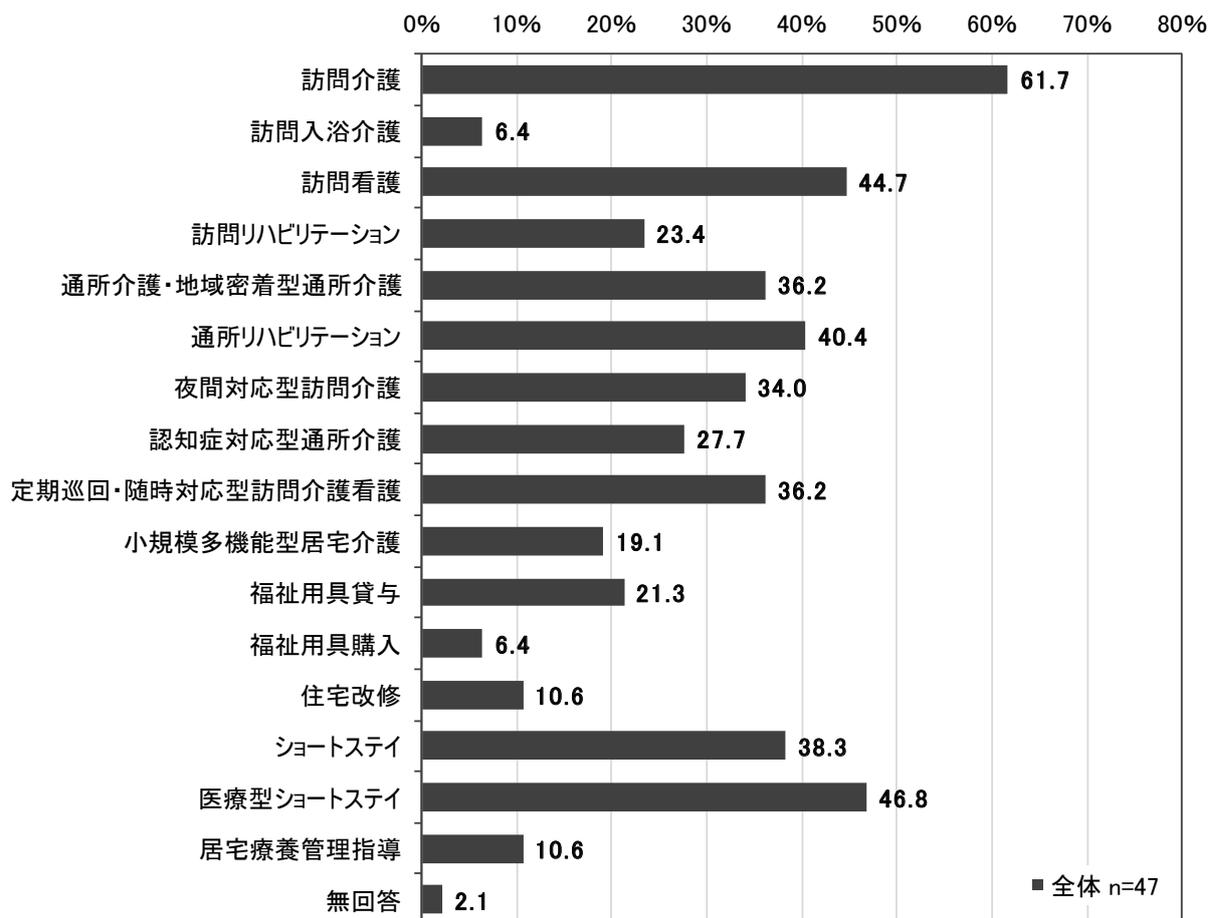
## 4. 介護保険サービスについて

「4. 介護保険サービスについて」は、居宅介護・介護予防で充実させるべきと感じるサービス、定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスに対するイメージ、小規模多機能型居宅介護サービスに対するイメージ、高齢者虐待の事例の有無及びその後の対応を把握するための項目となっています。

問 15. 居宅介護サービス計画書（介護予防サービス計画書）の作成または見直し時に、あなたが充実させるべきと感じるサービスについて、「ア 居宅介護」「イ 介護予防」のそれぞれ5つ選んで、番号を記入してください。

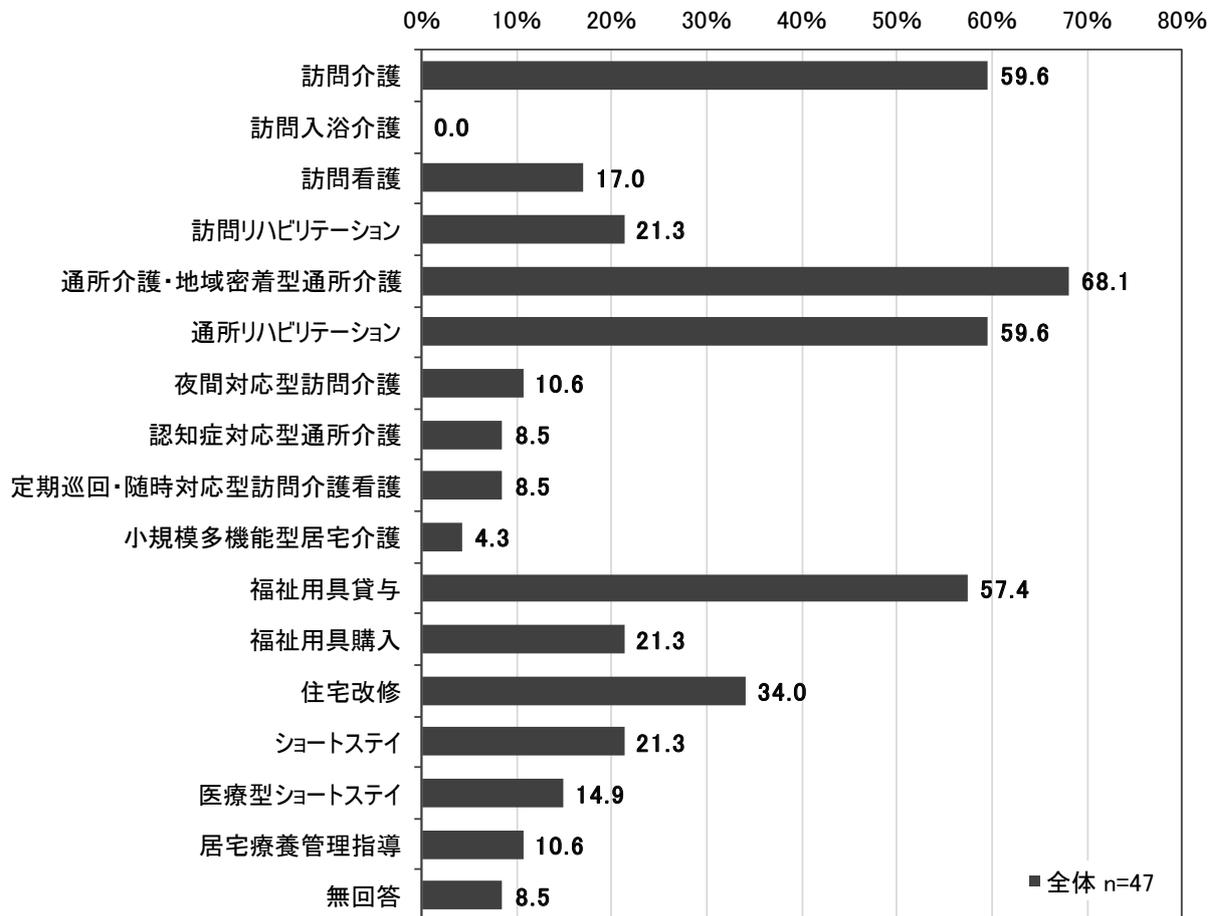
### ア 居宅介護

居宅介護において、充実させるべきと感じるサービスについては、「訪問介護」が 61.7%で最も高く、次いで「医療型ショートステイ」が 46.8%、「訪問看護」が 44.7%となっています。



イ 介護予防

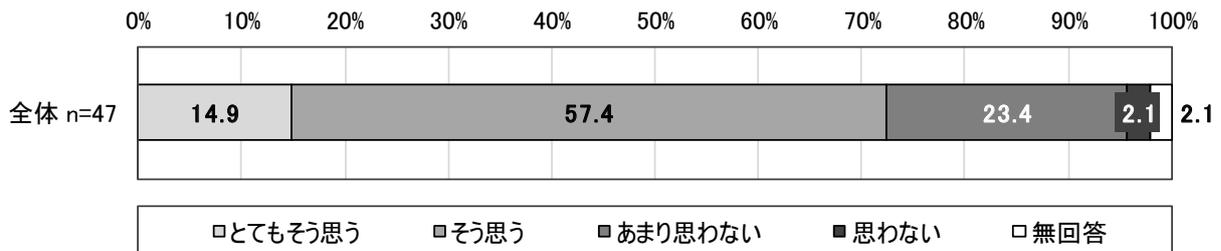
介護予防において、充実させるべきと感じるサービスについては、「通所介護・地域密着型通所介護」が68.1%で最も高く、次いで「訪問介護」「通所リハビリテーション」がともに59.6%、「福祉用具貸与」が57.4%となっています。



問 16. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスについて、どのようなイメージをお持ちですか。  
 (あてはまるものすべてに回答)

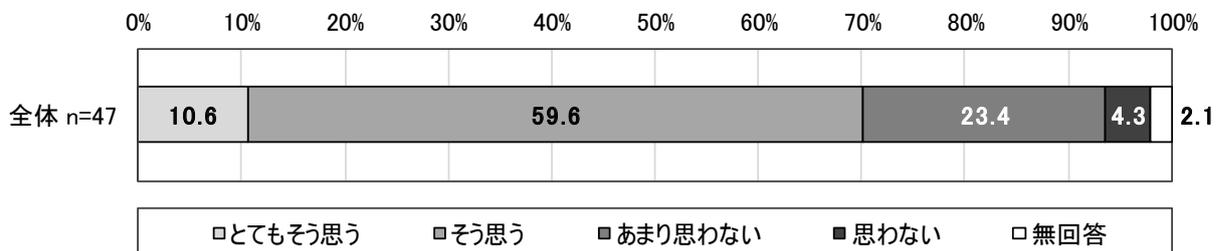
①重度の要介護者向けのサービスである

重度の要介護者向けのサービスであるに対しては、「そう思う」が57.4%で最も高く、次いで「あまり思わない」が23.4%、「とてもそう思う」が14.9%となっています。



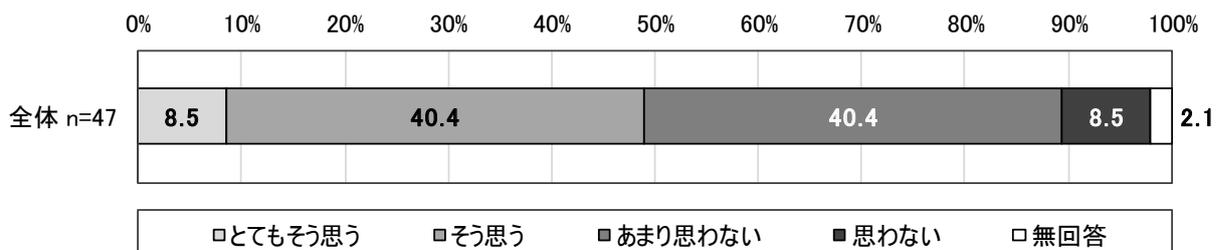
②医療対応が必要な方向けのサービスである

医療対応が必要な方向けのサービスであるに対しては、「そう思う」が59.6%で最も高く、次いで「あまり思わない」が23.4%、「とてもそう思う」が10.6%となっています。



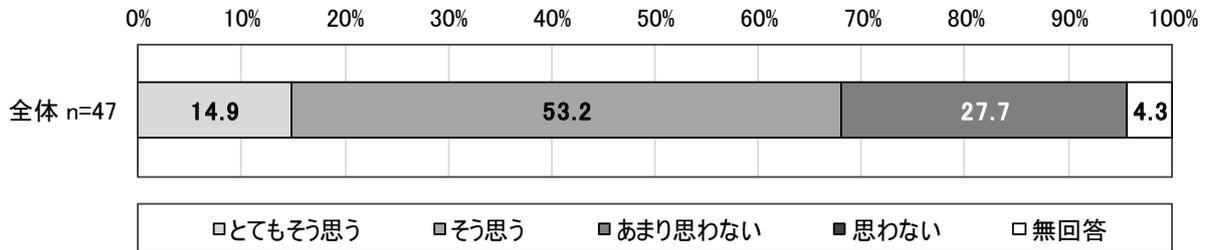
③夜間・深夜の対応が中心のサービスである

夜間・深夜の対応が中心のサービスであるに対しては、「そう思う」「あまり思わない」がともに40.4%で最も高く、次いで「とてもそう思う」「思わない」がともに8.5%となっています。



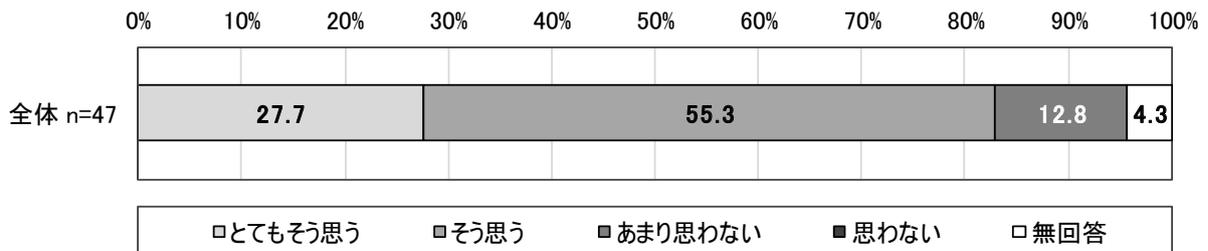
④介護報酬が定額なので状況に応じて柔軟な利用が可能なサービスである

介護報酬が定額なので状況に応じて柔軟な利用が可能なサービスであるに対しては、「そう思う」が53.2%で最も高く、次いで「あまり思わない」が27.7%、「とてもそう思う」が14.9%となっています。



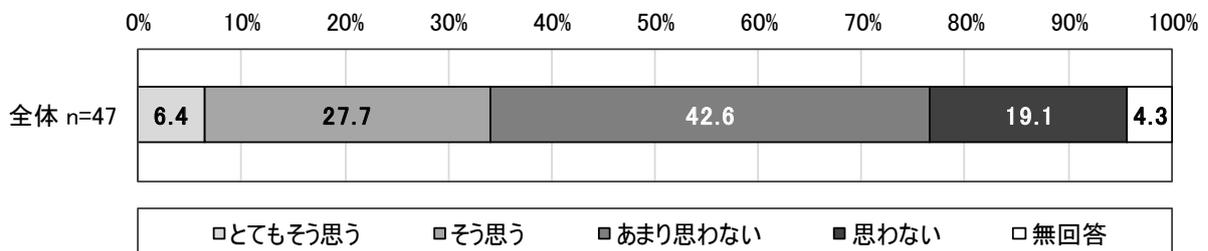
⑤短時間で頻回の利用が可能である

短時間で頻回の利用が可能であるに対しては、「そう思う」が55.3%で最も高く、次いで「とてもそう思う」が27.7%、「あまり思わない」が12.8%となっています。



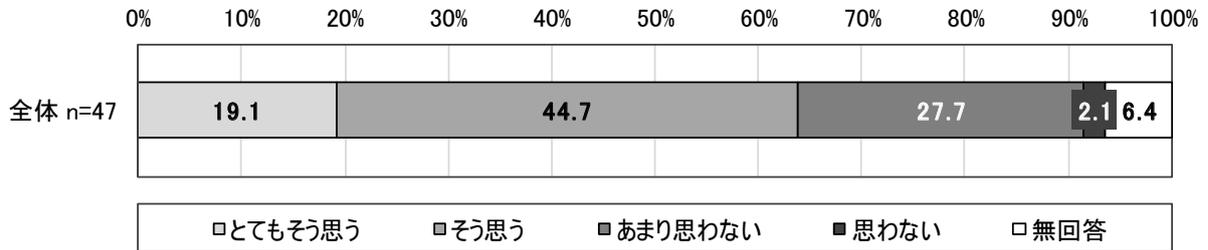
⑥どのような状態像に適したサービスなのかうまくイメージできない

どのような状態像に適したサービスなのかうまくイメージできないに対しては、「あまり思わない」が42.6%で最も高く、次いで「そう思う」が27.7%、「思わない」が19.1%となっています。



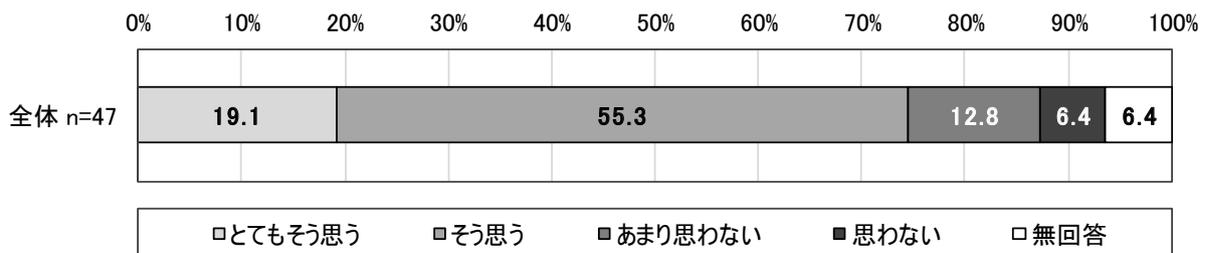
⑦単位数が高い、利用料が高い

単位数が高い、利用料が高いに対しては、「そう思う」が44.7%で最も高く、次いで「あまり思わない」が27.7%、「とてもそう思う」が19.1%となっています。



⑧介護報酬の算定が複雑

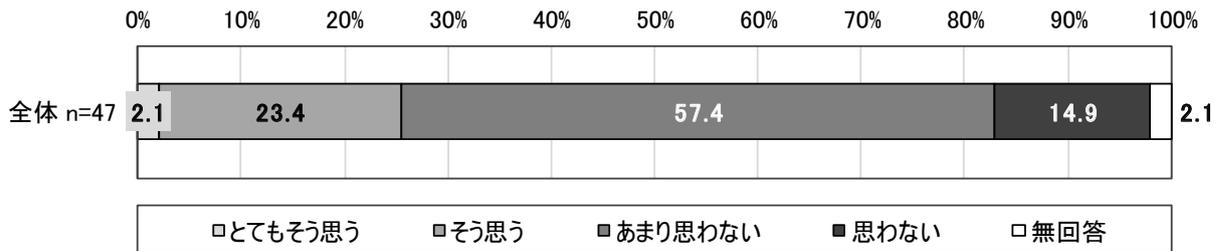
介護報酬の算定が複雑に対しては、「そう思う」が55.3%で最も高く、次いで「とてもそう思う」が19.1%、「あまり思わない」が12.8%となっています。



**問 17. 小規模多機能型居宅介護サービスについて、どのようなイメージをお持ちですか。**  
 (あてはまるものすべてに回答)

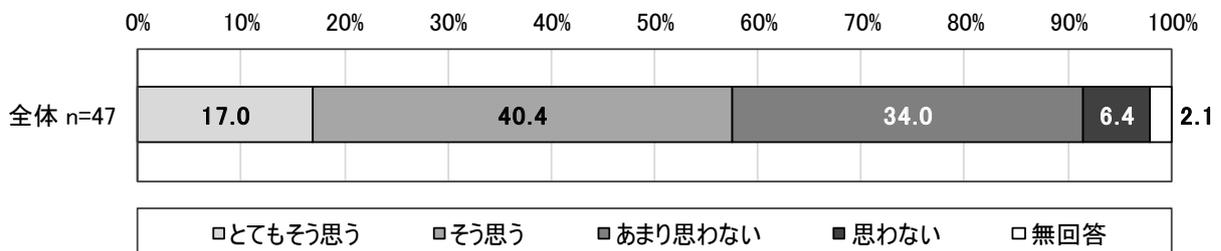
**①重度の要介護者向けのサービスである**

重度の要介護者向けのサービスであるに対しては、「あまり思わない」が 57.4%で最も高く、次いで「そう思う」が 23.4%、「思わない」が 14.9%となっています。



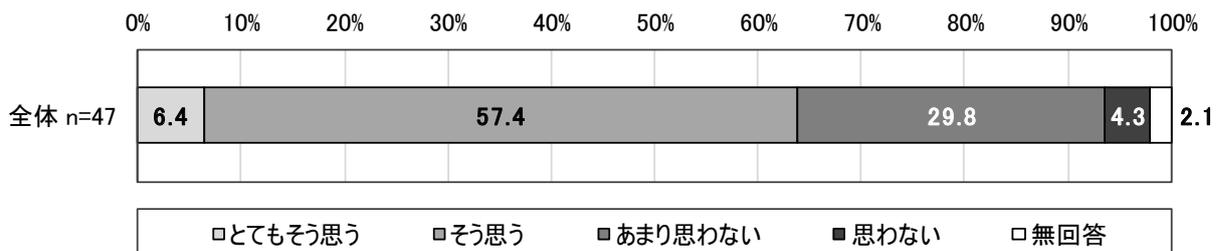
**②認知症の方向けのサービスである**

認知症の方向けのサービスであるに対しては、「そう思う」が 40.4%で最も高く、次いで「あまり思わない」が 34.0%、「とてもそう思う」が 17.0%となっています。



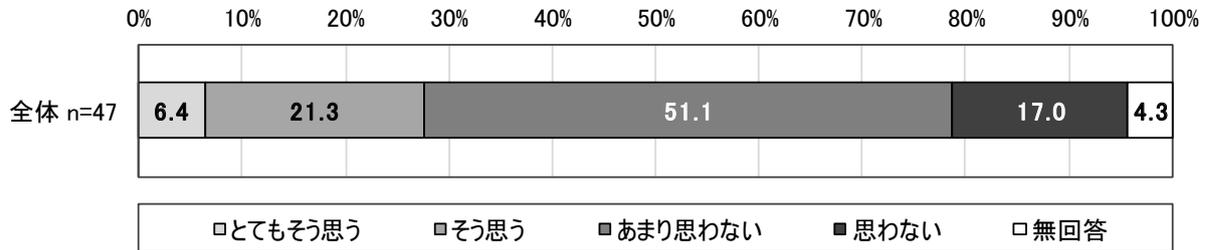
**③介護報酬が定額なので利用者の状態に応じて柔軟な利用が可能なサービスである**

介護報酬が定額なので利用者の状態に応じて柔軟な利用が可能なサービスであるに対しては、「そう思う」が 57.4%で最も高く、次いで「あまり思わない」が 29.8%、「とてもそう思う」が 6.4%となっています。



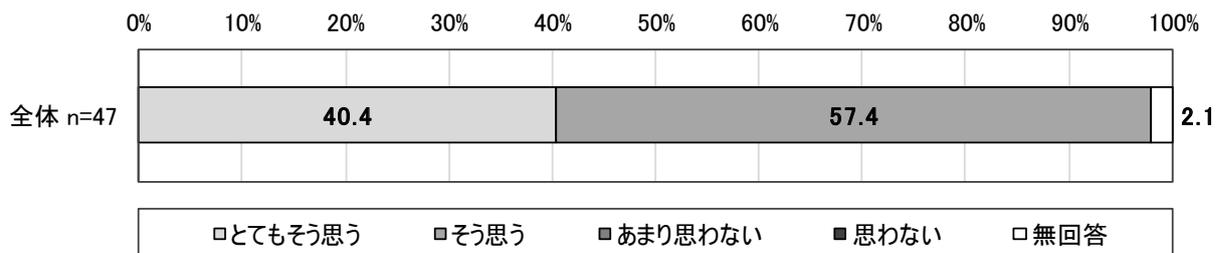
④どのような状態像に適したサービスなのかうまくイメージできない

どのような状態像に適したサービスなのかうまくイメージできないに対しては、「あまり思わない」が51.1%で最も高く、次いで「そう思う」が21.3%、「思わない」が17.0%となっています。



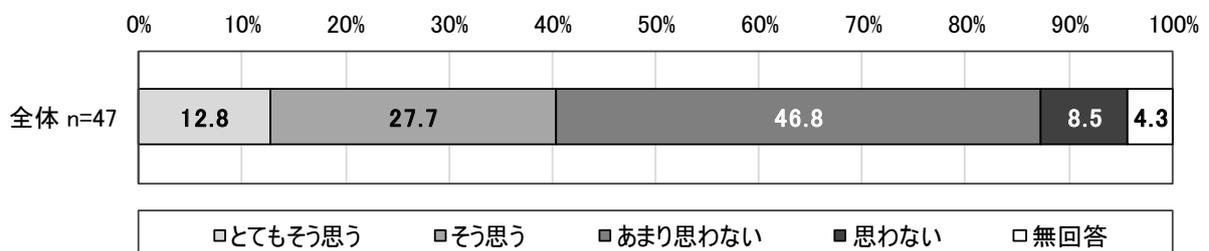
⑤利用者や家族にあまり知られていない

利用者や家族にあまり知られていないに対しては、「そう思う」が57.4%で最も高く、次いで「とてもそう思う」が40.4%となっています。



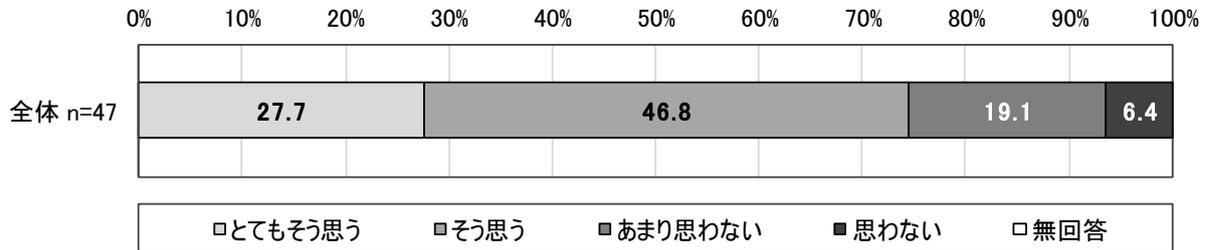
⑥利用料が高い

利用料が高いに対しては、「あまり思わない」が46.8%で最も高く、次いで「そう思う」が27.7%、「とてもそう思う」が12.8%となっています。



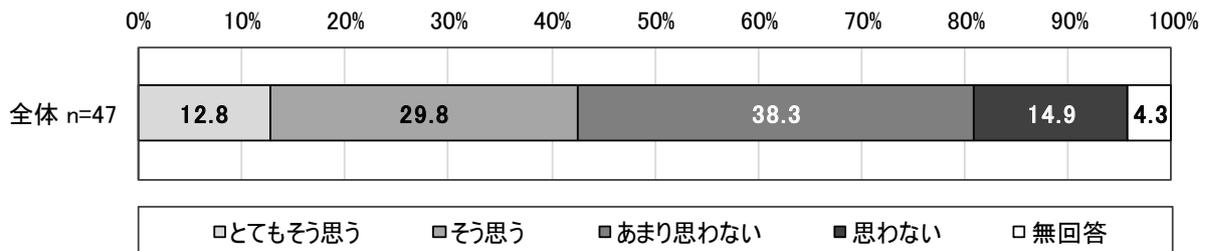
⑦他の事業所を利用できなくなるので、利用につながりにくい

他の事業所を利用できなくなるので、利用につながりにくいに対しては、「そう思う」が46.8%で最も高く、次いで「とてもそう思う」が27.7%、「あまり思わない」が19.1%となっています。



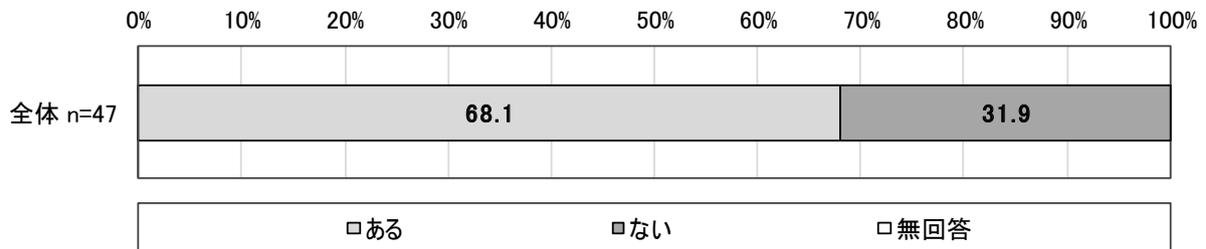
⑧ケアマネジメントを引き継がなければならないので、利用につながりにくい

ケアマネジメントを引き継がなければならないので、利用につながりにくいに対しては、「あまり思わない」が38.3%で最も高く、次いで「そう思う」が29.8%、「思わない」が14.9%となっています。



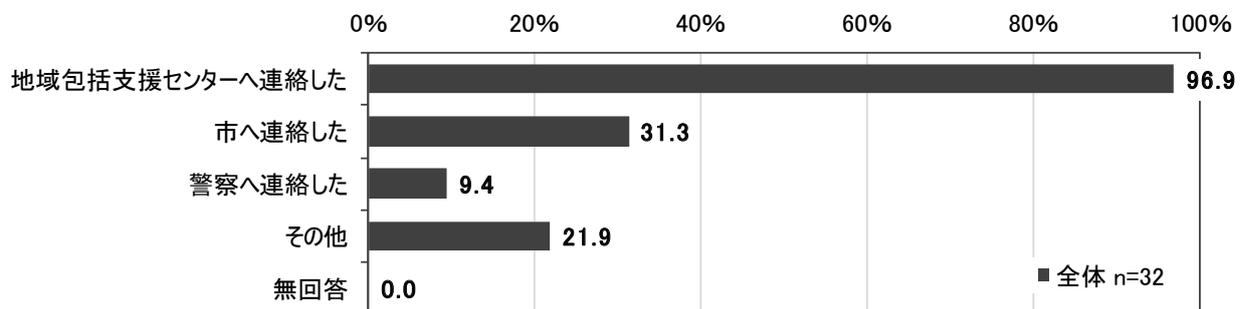
**問 18. これまで、高齢者虐待が疑われるような事例を経験したことがありますか。**  
**(回答は1つ)**

高齢者虐待が疑われるような事例を経験したことがあるかについては、「ある」が 68.1%、「ない」が 31.9%で、「ある」が 36.2 ポイント上回っています。



**問 18-1. 【問 18で「ある」と回答した方におたずねします。】**  
**虐待が疑われる状態に気づいた後、どこへ通報しましたか。(あてはまるものすべてに回答)**

虐待が疑われる状態に気づいた後の対応については、「地域包括支援センターへ連絡した」が 96.9%で最も高く、次いで「市へ連絡した」が 31.3%、「その他」が 21.9%となっています。



## 第2章 ケアマネジャー 調査結果のまとめ

### 【1. あなた自身について】

回答者の構成において、年齢階級では、30歳代が4.3%、40歳代が29.8%、50歳代が40.4%、60歳代が21.3%、70歳以上が4.3%となっています。

ケアマネジャーの仕事の通算年数では、10年以上が約6割を占め、3年未満が約1割となっています。

### 【2. 業務の状況について】

担当する居宅ケアプランの作成人数では、31人～40人が約7割を占めています。

現在の業務量に対する負担感では、負担を感じているが約9割を占め、多くのケアマネジャーが負担を感じながら業務を行っている状況であります。

負担を感じている業務では、介護予防プランの作成、利用者本人と家族の意向との調整、主治医や他の専門職との連絡・調整が上位に挙げられており、介護をするうえで、介護予防プランの作成や家族や専門職との連携に対して負担を感じている状況であります。

今後、医療関係者との連携を充実させるためでは、情報を共有するためのルールを定めるが最も高い割合を占めています。負担を感じる業務において、主治医や専門職との連絡・調整が上位に挙げられていることから、情報共有のルールを定めることで、負担が減ると考えられている結果が表れていると考えられます。

### 【3. ケアプランについて】

ケアプラン作成時など、業務上で判断に悩んだ場合の対応では、保険者に相談しているが約8割と、多くのケアマネジャーが判断に悩んだ場合、保険者に相談している状況となっています。

ケアプラン作成時のインフォーマルサービスの活用状況では、活用しているが約8割と、多くのケアマネジャーがインフォーマルサービスを活用しており、活用しているインフォーマルサービスでは、配食サービス、移送サービス（介護、福祉タクシー等）が上位に挙げられています。

### 【4. 介護保険サービスについて】

居宅介護サービス計画書の作成または見直し時に、充実させるべきと感じるサービスとして上位に挙げられている項目では、居宅介護については、訪問介護、医療型ショートステイ、訪問看護、通所リハビリテーション、介護予防については、通所介護・地域密着型通所介護、訪問看護、通所リハビリテーション、福祉用具貸与となっています。

定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスへのイメージでは、どのような状態像に適したサービスなのかイメージできないは約3割と、サービスへのイメージを持っているケアマネジャーが多く、重度の要介護向けのサービス、医療対応が必要な方向へのサービスとして認識されている傾向がみられます。また、介護報酬の算定が複雑だと感じている割合は約7割となっています。

小規模多機能型居宅介護サービスへのイメージでは、利用者や家族にあまり知られていないが9割を超え、非常に高い割合となっています。どのような状態像に適したサービスなのかイメージできないは約3割と、サービスへのイメージを持っているケアマネジャーが多く、認知症の方向へのサービス、介護報酬が定額なので利用者の状態に応じて柔軟な利用が可能なサービスであると認識されてい

る傾向がみられます。また、他の事業所を利用できなくなるので、利用につながりにくいと感じている割合が約7割となっています。

高齢者虐待が疑われる事例を経験したことがあるかでは、あるが約7割と半数を超えており、虐待が疑われる状態に気づいたときの通報先は、地域包括支援センターへ連絡したが9割を超える結果となっています。

